

議長（生田目久夫君） 次，3番平山晶邦君の発言を許します。

〔3番 平山晶邦君登壇〕

3番（平山晶邦君） 3番平山晶邦であります。

合併して，1年が過ぎました。光陰矢のごとしの言葉どおり，本当に早く過ぎたように感じられます。先日，金砂郷地区の市民と話をしていたら，「合併して1年がたったけれど，私たちは合併してよくなったという実感はないな。合併してよくなったのは市会議員だけだな」と言われました。合併する前の行政サービスより，合併後に低下した行政サービスがあると，幾つかの指摘をされました。議員に 対して大変厳しい市民の目を感じました。私は，その市民の厳しい視線を背負い，市民との会話を念頭におきながら，議長のお許しをいただきましたので，ただいまから一般質問をさせていただきます。

第1点は，18年度の予算編成についてであります。予算編成の基本方針，財政の確保，決算特別委員会で出ました課題の解決の3点についてお伺いをいたします。

まず，予算編成の基本方針についてお伺いをいたします。

12月に入り，18年度の予算編成作業に入られたと思います。18年度の予算は，大久保市長になって初めての予算編成になります。それゆえ，市民は，新市長になってどのように変わっていくのか，大変興味を持って注目していると思います。市長は，行財政の改革，市民への情報公開と説明責任等を公約に掲げて，市民の負託を得ました。その実現のために，どのように取り組んでいくのかが問われる18年度の予算になると思います。

12月の議会の中でも，指定管理者制度の導入などに取り組み，官から民への流れの中で頑張っていることは承知いたしておりますが，なお一層の努力が求められております。そこで，18年度の予算編成について，各部局にどのような基本方針で行うよう指示をされているのかを，お伺いをいたします。

次に，予算編成に当たり，財政的観点から，財政の確保についてお伺いいたします。特に歳入の確保の点でご説明をいただきたいのです。政府は三位一体改革のもと，18年度の予算編成で，8年ぶりの低水準である一般歳出を46兆円台とし，新規国債発行額に30兆円の枠をはめ，17年度より4兆円も減らす必要から，地方交付税の見直し，各種交付金・補助金等の削減を図り，所得税，個人住民税で，地方への税源移譲を進めると言われておりますが，その内容はまだ明確になっておりません。

そんな三位一体改革が進む中，常陸太田市の17年度の一般会計の予算の歳入は，238億円でありました。その中で，市税は48億円で，歳入に占める割合は20.4%となっています。一方，地方特例交付金と地方交付税を合わせると89億円で，歳入に占める割合は37.5%です。このように，地方交付税等に依存した財政では，18年度の予算編成にその影響はかなり出てくるのではないかと危惧をいたしております。また，17年度の予算は，基金より21億円繰り入れて，そして，起債を20億円ほどしております。財政調整基金も，年々減じているのが現状のようであります。

茨城県内の市で最低の財政力であります本市の18年度の予算は，大変厳しいものとな

ることが予想されます。そこで、財政的観点から、18年度の予算編成をどのように取り組んでいくのか、特に歳入の確保という点から、わかりやすくご説明をいただきたいのであります。また、歳出削減に向かって、数値目標などは部門に提示しているのかを、お伺いいたします。

次に、9月の決算特別委員会で指摘した疑問・課題がどのように生かされた予算編成を提示しているのかをお伺いいたします。私は、行政は一連のサイクルで運営されていると思っております。執行部が予算編成を行い、議会が審議・認定し、執行部は予算を執行し、決算を行い、議会が決算を審議し、認定する。この当たり前の作業の中で、さまざまな問題・課題があったならば、それは、次の場面に生かされなければならないと思っております。議会で認定されたから、それでよい、それで済んでしまったということではないと思えます。議会と執行部のチェックとバランスの中で、行政は運営されていくのではないのでしょうか。

6月議会の中で、大久保市長は、私の事業評価、行政評価の一般質問に対する答弁の中で、「今までの行政のあり方というもの、計画と実行という繰り返しであった」その中に、チェックし、アクションを行うプラン・ドゥー・チェック・アクション、すなわち計画し、実行し、点検し、改善する。先ほども市長答弁の中で触れられておりましたPDCAのサイクルを回すことは、「当然必要なことである。そして、費用対効果の考え方も強めながら見ていく」と述べられております。私も、全く同感であります。

9月議会において、宮田委員長を初めとした決算特別委員会の中で、さまざまな疑問が呈されたと思えます。それは次の予算には、生かされなければならないと、私は考えます。合併初年度でありますので、先ほども市長が触れられました、調整項目が多くあることは承知いたしております。私は、今まで何度も言ってきましたが、市民サービスにかかわる合併調整項目は、時間が必要であります。委託業者等への予算は、市民に説明がつく基準を設けて行えばよいことでもあります。市長は、市民への説明責任を第一義に考えられておりますから、18年度の予算編成に当たっては、決算特別委員会の中であった課題を解決した予算編成をお願いしたいのであります。

第2点目は、金砂郷地区における統合中学校の検討状況についてお伺いいたします。

私は、本市における教育行政は、今後、大変難しい状況が生まれてくると思えます。生徒数の減少、地域の広さ、財政的な状況、生徒の安全対策等、多くの課題に取り組んでいかなければなりません。金砂郷地区も生徒数の減少に対応した対策が必要だとの認識から、現在の中学校2校体制から1校体制へと、合併前から検討を進めていました。その考え方は、合併後も引き継がれたと思えます。

教育問題は、子供を持つ家族にとっては大きな問題であり、地域にとっても、教育文化は大切であります。それゆえ、地域にとって、地区の住民にとって、学校の統合問題、そして建設問題は課題であります。里美地区においては、現在、新中学校を建設中でありませんが、金砂郷地区においても、教育の効率化を図りながら、生徒数の減少を想定し、校舎

の老朽化対策も含め、統合中学校の建設を検討していただきたいと思うのであります。現在の検討状況についてお伺いいたします。

第3点目として、市内幹線道路の公共路線バスの運行についてお伺いいたします。

常陸太田地区は、県北地区の商都として栄えておりました。また、金砂郷・水府・里美地区に通ずる交通の要所でもありました。私も、バスを利用して高柿町から太田一高へ通学いたしました。近年、モータリゼーションが発達し、現在、公共交通機関である路線バス事業は、大変厳しい経営状況であると思います。

本市でも、市民の足である路線バス事業に対し、運営の一助として補助をしておりますが、その維持は、経営事業者としての茨城交通、日立電鉄のご苦勞は大変なものがあると思います。私は、今の常陸太田市に他に誇れるものとしていえば、それは、教育文化都市であるということではないでしょうか。市内に4つの伝統ある高校があり、近隣から通学する生徒がいる。それは、本市の財産であります。それが維持できるのも、公共交通機関である路線バスがあるからであります。本市において、日立電鉄線の廃止は多くの問題を残しました。それ以上に、常陸太田から金砂郷・水府・里美への路線バスが廃止などということになれば、その影響ははかり知れません。そして、そのことは、常陸太田市のまちづくりに多大な影響を与えたいと思います。まちづくりには、すぐにあらわれる特効薬はないと思うのですが、交通インフラの整備は、まちづくりの中で重要なものであると思います。市は、路線バス運行事業者と話し合いを多く持って、よりよい路線バス運行ができるよう努力していただきたいのであります。

今回、大項目で3つの質問をさせていただきました。私は、財政難、地域のポータレスタ化、コミュニティーの希薄化等、行政運営が年々難しい時代の中で、いかにして常陸太田市の独自性と活力を確立していくのか、大久保市長の手腕に期待すること大であります。私も、市長とともに常陸太田市の明るい未来のために協力をすることをお誓いいたしまして、1回目の質問といたします。

議長（生田目久夫君） 午後1時まで休憩いたします。

午後0時05分休憩

午後1時00分再開

議長（生田目久夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

市長（大久保太一君） 平山議員のご質問の中に、予算編成方針に関してのお尋ねがございました。先ほど、立原議員のご質問の中にも重複している部分がありましたけれども、一応お答えをさせていただきます。

まず、歳入に関しまして、財源の確保という点で、これが一番大切であるということはお指摘のとおりでございます。財政力の非常に低い本市にとりましては、意を用いる必

要があるというふうに認識をいたしております。自主財源といたしましては、市税のほかには、使用料及び手数料、あるいは財産収入等でございますが、その中で、決算委員会等でもご指摘をいただいております。税金の徴収率の向上ということに、最も意を用いていきたいというふうに思う次第であります。

それから、地方交付税、あるいは地方譲与税及び交付金等に関しましても、特に補助事業等に関しましては、財源の乏しい中で事業展開していく上で、有利な補助政策等につきまして、それぞれの分野でもっと勉強をした中で、その事業にその財源として織り込むというようなことを指示しているところでございます。

それから、歳出に関しましては、先ほども答弁の中に含まれておりましたが、本年の平成17年度当初予算比で考えましたときに、旅費、交際費、あるいは消耗品費につきましては、それぞれ15%減ということで数字を示しておるところでございます。そのほか、実施計画に登載されております事業に関しましては、今まで実施計画の額を超えない、それ以内で予算要求を提出させまして、その中身について精査をしていこうというふうに考えております。その他の経費につきましても、前年の額を超えない範囲でやるということで、中には、今どきもうちょっと厳しくやったらどうかというご意見に、あるいはなろうかと思っておりますが、それらの予算要求が出そろいました時点で、これらについて、内容については厳格に審査をし、予算の編成をしていきたい、そういうふうに考えております。

そして、もう1点、前年度までと1点だけ、予算編成に当たって留意点として追加をいたしましたのは、平成17年度は合併して直後の予算編成ということがありまして、各本庁・支所等での予算編成をした中で、それを合算するような形での予算編成が中心であったと思います。18年度に関しましては、本庁・支所間でのそれぞれの共通部門が当然でございますから、その中でよく合議をした上で、バランスのとれた予算編成をしていきたい、こういうふうに思っているところであります。

なお、事業の計画に当たりましては、過疎地に対します過疎債の発行が、平成21年度で終わりになります。従いまして、その21年度までに事業が完了するものでなければ、これを取り上げて計画に入れるわけにはいきませんので、そういうことを重点に考えまして、予算編成をしていきたいというふうに思っているところであります。

なお、人件費等につきましては、定員管理計画、ただいま最終策定中ではありますが、それらに基づきまして、人件費の削減にも努めていこうということであります。

先ほど立原議員のご質問の公用車の件等もございましたが、私の申し上げました目先にできることに関しての費用削減ということは、大いに積極的に進めまして、できるだけ財源を有効に活用していきたいと思っております。18年度予算全体を考えましたときに、平成17年度予算額までの予算の確保は難しいという状況にございます。したがって、ただいま申し上げましたような中身から、厳選した事業計画を進めていきたいというふうに思います。

事業の中で忘れていけないことは、ライフラインに関することについては、早く整備を

していく必要があるというふうに考えております。先ほど来ご質問の中にもございましたが、上水道の問題、ごみ処理の問題、あるいはし尿処理の問題、それから、市民の生命を守るためのいろんな施策、そういうことに関しては、これをベースに置く必要があるというふうに考えております。そのような基本的な考え方に基つきまして、予算編成をしていきたいと思っております。

議長（生田目久夫君） 教育長。

〔教育長 小林啓徳君登壇〕

教育長（小林啓徳君） 金砂郷地区における統合中学校の検討状況についてのご質問にお答えをいたします。

現在、教育委員会におきましては、将来の児童生徒数の動向を踏まえ、常陸太田市における教育施設等のあり方を検討するため、市学校施設検討協議会を設置いたしました。諮問した中に、中学校の適正規模についても諮問してありますので、金砂郷地区の統合中学校につきましても、これまでの経過を踏まえ、その中で検討していただくことになっております。

議長（生田目久夫君） 市長公室長。

〔市長公室長 柴田稔君登壇〕

市長公室長（柴田稔君） 平山議員の市内幹線道路公共バスの運行についてのご質問にご答弁申し上げます。

市内幹線道路の公共バスの運行につきましては、現在、民間事業者による路線バスというのが運行されておりますが、市としましては、市民生活における移動手段の確保という観点から、運行における路線の赤字相当分を補助しながら、路線の確保を図っているところでございます。参考までですが、16年度で申しますと、茨城交通が12の路線、日立電鉄バスが1路線ということで、13の路線に補助を行っているというようなことで、路線の確保を図っている現状がでございます。これらの民間事業者によるバスの利用につきましては、議員ご発言にもありましたとおり、年々利用客が減っているというような状況がありまして、経営的に路線の維持存続が困難になってきているというような報告をもらっているところでございます。

こういう中で、民間事業者によるこれらのバス路線を運行していくというほかに、市民バスを運行しまして、さらには、地区によりまして、患者輸送バスというようなのも運行しまして、旧市町村内に限っての運行であります。こういう路線バス以外の補完をして、移動手段を図っているというのが現状であります。

新市の一体性や地域間の交流の促進、市民の日常生活における利便性の高い移動手段等の確保等のために、新たな公共交通体系の整備が急務になってきている状況になっております。このために、現在、考えております平成18年度には、市、それと民間事業者、関係行政機関、市民の代表者、これらによる意見の交換の場としまして、現在考えている、仮称でございますが地域交通会議、こういうのを市で今準備をして、開催をしていき、市

民，それに民間事業者，これはバス会社，あるいはタクシー会社，こういう方を含めまして，さらに，この中で行政の役割分担を明確にして，新市の地域全体の中で，地域の実情に即した公共交通サービスの範囲や形態等のあり方等について検討をして，できれば19年度中には，新たなこういったシステムの中で，新たなこういう手段としての試行運行というのできるよう，協議を行ってまいりたいと現在考えております。

なお，全体的なこういった公共交通対策の検討に先立ちまして，市民バスの運行が，この議会で何回かご質問をいただいております。こういう運行につきまして，平成18年度中に，来年度になります，現在のコースのほかに，早期に新市の一体化を図るといって，これらを考慮しまして，4地区を結ぶコースの増設，太田地区，金砂郷地区，水府地区，里美地区，これらを，路線バス以外に市民バスでそれぞれコースを設定しまして，試行運行をしてみたいというようなことで，現在，検討を進めているところでございます。そういう中で，公共交通全体のそういう会議を18年度中には開催ができればと，現在考えております。

以上です。

議長（生田目久夫君） 総務部長。

〔総務部長 萩谷暎夫君登壇〕

総務部長（萩谷暎夫君） 平成18年度予算編成についての中で，決算特別委員会等において指摘された疑問を考慮した予算編成についてのご質問にお答えいたします。

事務事業の見直しにつきましては，これまで，行政改革推進事項の1つとして進めてきたところでありますが，事務の執行に当たりましたは，現在行っている手順や手法などに固執することなく，常に改善・改革の原点に立って，事務の見直しを進めていくこととしております。

このため，本会議はもとより，常任委員会，特別委員会等におきましてご提言，あるいはご指摘いただいた内容につきましては，直ちに実施できるもの，実施までに時間を要するもの，実施が難しいもの等々違いはございますが，それぞれの担当において，事務の見直し，あるいは改善に向けた取り組みに努めているところであります。

平成18年度予算につきましては，現在，要求書を取りまとめているところでありますが，各課等において，見直しや改善が図られた事務事業につきましては，予算に反映されてくるものと考えております。なお，予算編成方針における委託料等につきましては，継続している委託契約については，安易に計上せず，委託内容の再検討を行うとともに，単価等積算内容についても，原則として複数業者より見積もりを徴するなど再度検討して，最小限の額で計上することと指示しているところであります。

以上です。

議長（生田目久夫君） 3番平山晶邦君。

〔3番 平山晶邦君登壇〕

3番（平山晶邦君） 2回目の質問をいたします。

先ほど、市長から基本方針についてのご説明がございました。ただ、私は、市長の答弁を聞いていて思うのは、昨年と同様の形の中で、各部門から見積もり、そして、予算等をとっているということでありましたが、私は、前年よりもトータル的な予算を減少せねばならないという現況の中では、ある程度の数値目標的なものを、各現業にももっと明確に記すべきだというふうに考えます。そして、今、予算をつくる大変重要な時期でありますから、各現業部門でも、どうしたらいいのかなという疑問があるようにも聞いております。ですから、やはり財政の方から、明確に何%のマイナスという形で記すべきではないかという考えを持っておりますので、その点お含みおきをいただいて、よろしく願いいたします。

また、財政の確保という意味では、私はもっとご説明をいただきたいというふうに思います。地方交付税等、地方交付金等、また補助金等が相当あったと思いますが、それでは、来年度の予算の中で、何に変わって、どういう観点で徴収するのか。例えば、今言われておりますのは所得税と個人住民税ですか、それから、それが財源が移行されて、そこから地方公共団体は取るというふうな説明であります。これは、わかる範囲で結構でございますから、やはり地方交付税等に相当依存した本市の場合は、その辺をもっと精査をすべきではないかというふうに考えます。税源移譲に伴う先ほど申し上げました所得税、個人住民税に置きかえた場合、定率減税分のもので置きかわってくるわけでございますから、その辺、もっと詳しい内容のご説明をいただければというふうに考えます。

それと、決算委員会の中で指摘しました課題等に関しましては、各現業部門で今精査をしているという内容でございましたが、私は、やはり市民に説明できる基準、これは明確にやはり今の段階でつくるべきだというふうに考えております。例えば、私は決算委員会の中で、給食センターの配送委託業務の質問をいたしました。その中で、これは1つの例でございますが、キロ当たりの単価、答弁をもとに私なりに算出をしてみました。そうしましたら、常陸太田地区は1キロ当たり302円の配送運賃をやっている。金砂郷地区は498円、水府地区は1キロ当たり885円で運行していた。昨日、私、結婚式がありまして、東京へ行きました。タクシーに乗りましたが、東京でのタクシーの初乗りでありまして、初乗り運賃が2キロで660円でありました。そうしますと、この水府地区の885円で今年度予算を組んでやっているというものは、果たして市民に説明できる内容なのかと、私は甚だ疑問であります。

ちなみに、近隣の、例えば那珂市ではどのくらいの料金をやっているかといいますと、キロ当たり360円。大子では、14校に4台の車で配送しております。それが、年間1,100万円。これも、16年度は900万円で運行しておったと。それをこじは1,100万円に上げましたが、それも、地域で3番目に大きい大子のところを4台で配送して、1,100万円でありました。

そして、このような現況を考えると、私は、県に参りました折、県の市町村課に聞いてまいりました。合併した市町村における仕組みというふうなものを聞いてきまして、

市町村課の申すところによると、「合併後速やかに統一するのが望ましいが、調整期間の場合は、社会通念上合理的と思える説明が必要である」、このような回答でございました。そしてまた、「それでなければ問題がある」ということでありました。これが、県の市町村課の見解でございます。ですから、やはり市民に説明がつく予算というものを、ぜひとも18年度の中で組んでいただきたいと、改めて要望をするものであります。

そしてまた、2番目の統合中学校の問題、これに関しましては、審議会で答申をもらうというご回答でございました。ぜひとも早期の答申を得て、金砂郷地区における、これは統合でございますから、今までであったことではなく、金砂郷地区における教育の合理化、そして効率化を進める内容でございますので、早急な結論をいただいて、統合中学校の整備をお願いいたします。

また、最後の公営公共バスの件であります。ぜひともご答弁にありましたように、仮称であって地域交通会議でございますか、この充実を図って、19年度を目途に、この市民バスの運行拡大も図るというご回答でございますから、ぜひともよろしくお願ひしたいと考えます。

以上、予算の確保に関して改めてご答弁をお願いしまして、第2回目の質問といたします。

議長（生田目久夫君） 答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

市長（大久保太一君） 再度のご質問にお答えをしたいと思います。

もっと数字で具体的に予算編成方針を示せということでございます。特に歳入に関しましては、今月の20日に総務省の方から、地方財政対策概要なるものが示され、あわせて地方税の税収見込みの公の表が発表されることになっております。これに基づきまして、1月20日ごろに都道府県財政課長、あるいは地方課長等の会議がございまして、地方財政の対策、あるいは地方債計画、交付税伸び率等の数値が具体的となつてまいります。そういうことを踏まえまして、1月下旬に部長・助役・市長の予算査定を経まして、予算の編成をしていきたいというふうに思っております。

さらには、これから通年、向こう5年間、あるいは10年間等を踏まえたときの、全体の予算枠、数字等に関しましては、総合計画の実施計画の中、あるいは行革大綱の実施計画の中で示していきたい、そういうふうに思っているところでございます。

以上でございます。

議長（生田目久夫君） 教育長。

〔教育長 小林啓徳君登壇〕

教育長（小林啓徳君） 予算編成の委託料にかかわりまして、給食運搬についての再度のご質問にお答えを申し上げたいと思います。

ことしの予算編成につきまして、給食運搬に関して改善した点を申し上げますと、複数業者から見積もりを徴収したということ、さらには、運搬補助員の同乗について同一化を

図りました。本年度より7.3%、金額にして210万3,000円を減少した額で要求をしております。

しかし、まだ調整しなければならない項目もたくさんございます。議員ご指摘の基準も含めて、今後とも関係課と協議し、調整をしてみたいと思います。

議長（生田目久夫君） 3番平山晶邦君。

〔3番 平山晶邦君登壇〕

3番（平山晶邦君） 予算に関しましては、各現業の方で、今、ご苦労なさっているということでございますから、そういうことで了解をいたしました。

最後に、私が考えることを申し上げて、一般質問を終わりたいと思うんですが、私は、現在のグローバリゼーションの中、そして、ドッグイヤーと称される、いわゆる1年が4年に相当するという早い時代の流れの中において、地域のボーダーレス化が進行し、常陸太田市の問題も、常陸太田市だけで考えていたのでは難しい時代になっているように思います。

先日、水戸市の内原にできましたショッピングセンターに行ってみました。そこには、1つのまちがありました。食事をする場所、ショッピングができ、医療クリニックや薬局、美容室、床屋があり、アミューズメント施設の映画館もある。人が生活に必要なすべてがそろっている。ただ単に物を売るのではなく、そこで過ごす時間を売っている。そしてまた、インターチェンジの近くで、交通アクセスもよく、商圈を50キロ以上確保しているようです。太田街道的那珂市と常陸太田市の境にも、看板が立っています。

私は、以前にも、岩手県の盛岡でも同じようなショッピングセンターに行っていますが、そこは、岩手県にあるにもかかわらず、秋田県からもお客さんが来ていて、驚きました。

常陸太田市の商圈1つ考えてみても、今までのように大宮とか那珂市とか、そういう狭い範囲で考えるのではなく、もう商圈を50キロ、そして、内原のショッピングセンターを考えなければならない時代になりました。そして、医療でも、常陸大宮市にできる済生会病院を考慮した医療圏を考えなければならない時代になりました。私は、地域のボーダーレス化の中で、常陸太田市は今後どのようなまちになっていくのか、大変心配をしております。政治や行政が市民に対してどのようなプレゼンテーションができるのか、市民から試されている時代になってきたと思います。

今、答弁がありました内容でも不満な点が多々ありますが、今回はそのぐらいにして、私も市行政の一助を担う者として、改めて、これからの常陸太田市づくりに頑張っていくことをお誓いし、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。